

# 令和7年度 開かれた学校づくり協議会 第2回 議事録

日時：令和7年7月23日(水) 13:30~15:30 於 多目的室

出席者：協議会委員…校長、小宮、塩田、村田、後藤、小川、関、福里  
教職員…副校長 市職員…森野、鈴木 事務局…濱村、中山

欠席者：松村、大平、田畑、北川、中村、澤田、岡田

敬称略

## 1. 校長挨拶

## 2. 武蔵野市職員より

1)担当者より挨拶

2)校舎建て替え計画について

## 3. 熟議

テーマ「桜野地区(地域)とは」

地域の特性や魅力に関する共通認識を深め、地域の独自性を生かしながら、理想的な子供の成長や、育成すべき大人像、地域や教育の未来について意見交換し議論した。

### 地域活動と担い手の現状についてのまとめ

#### ○ 地域の特徴と課題

桜野地域は新しい街並みが広がる一方、商業施設や企業の少なさもあり、住民同士のつながりを育てる地域イベントが少ない。

#### ○ 担い手不足の背景と影響

地域イベントの継続には人材が必要であるが、以下の要因により新しい担い手の確保が難しくなっている。

- 若年世代の進学・就職などによる時間的制約
- 保護者世代も育児・仕事の両立が難しく、柔軟な関わり方が求められている
- 専業主婦の減少に伴い、従来の「空いた時間で地域に関わる」モデルが成立しづらくなっている

### 若年層・保護者の巻き込みと可能性

#### ○ 若い世代の可能性

地域活動への関心は若い世代にも存在しており、以下のような機会と工夫で巻き込みが可能とされている。

- 子供の頃から地域行事に参加することで、自然と大人になってからの関与につながる
- 清掃活動やボランティアサークルなど、若年層が自発的に関わっている事例もある
- 活動経験が進学や就職(大学入試の加点)に結びつく可能性もあり、意欲喚起につながる

#### ○ 子供を主役にした関わり

子供自身がイベント運営の担い手となることで、主体性や達成感を育むことができ、以下のような動きも生まれている。

- サブリーダー制度などを通じて、責任ある役割を体験できる
- 実行委員としてイベントに関わることで、「手伝うこと」が楽しみになる
- 学年に応じた参加形態や負担の調整が重要

#### ○ 情報発信と仕組みの整備

潜在的な担い手を掘り起こすためには、情報発信の工夫と地域独自の仕組みづくりが必要。

- SNS や地域アプリ、PTA などを活用した募集・周知が有効
- 登録制を導入することで、小学生や中高生が自分で関わりを選べる仕組みが可能
- 世代間で自然につながる環境整備が求められる

#### ✦今後に向けての視点と提案

- 地域のイベントは「義務」ではなく「楽しみ」や「貢献の喜び」として再構築されるべき
- 保護者・卒業生・中高生など多世代による協力体制の構築
- 地域子ども館や学校、商店街などを連携させた場づくりが、継続可能な地域づくりにつながる
- 子供から地域への発信を促すことで、未来の担い手の育成にもつながる

#### 4. おわりに

桜野地域では、後継者や人材育成の課題が指摘されました。次回の会議では「どのような大人に育てていくのか」をテーマに、委員としての働きかけ方と、地域の活動を支えられる理想的な人材像を議論する予定です。

---

次回は 令和7年8月25日(月) 14:30～ 開催予定

# 開かれた学校づくり協議会 第2回 R7.7.23 (水)



